

令和5年度 学校評価総括表 (徳島県立板野支援学校)

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
1 安心安全な学校づくり	・安全教育(通学・スクールバス)等や生徒指導・生活指導の推進(舎務部)	①「生活プロジェクト」の取り組みを通じて、キャリア発達内容表「Ⅰ健康・身体」「Ⅲ社会生活」を併せた7つの能力項目のうち2つ以上達成する。	①舎生7名全員、7つの能力項目のうち2つ以上を100%目標達成することができた。特に「生活プロジェクト」で基盤としている能力項目は「Ⅲ社会生活」の「はたらく(公共施設等の活用とマナー)」であった。	(評定)A (所見) ・「生活プロジェクト」は各舎生に1回以上実施することができた。 ・基盤としているキャリア発達内容表の位置づけをより明確にするために、事後の活動実施記録にはキャリア発達内容表の項目ごとの評価を追加実施することができた。 ・寄宿舎で数回実施されている防災訓練や防災に関する生活指導等の内容をキャリア発達内容表のどの能力項目に位置づけたらよいかの課題も出てきた。	評価指標の達成度による総合評価は適当である。学校の安全安心のために保護者や委員が具体的にどのような関わっていかねばよいかを考えるきっかけになった。	・舎生の「生活プロジェクト」実施計画の立案時に、基盤としている「キャリア発達内容表」の能力項目を明記できるようにしたい。 ・基盤としている「キャリア発達内容表」の能力項目に防災に関する内容追加の必要性を感じた。
		②「生活プロジェクト」は、各舎生1回以上実施する。	②舎生7名全員1回以上、「生活プロジェクト」を実施することができたので、100%目標達成とする。うち5名は2回実施することができた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①各学期ごと、舎生一人一人の生活指導の重点目標を検討する。	①個別の指導計画やキャリア発達内容表から、一人一人の生活指導の重点目標を検討することができた。			
		②キャリア発達内容表「Ⅰ健康・身体」「Ⅲ社会生活」の能力項目や系列項目を目標に取り入れた「生活プロジェクト」を立案する。	②すべての「生活プロジェクト」立案時にキャリア発達内容表を基盤として、目標を設定することができた。			
		③6月～12月の期間内に「生活プロジェクト」を実施し評価する。	③7月～1月の期間に「生活プロジェクト」を実施することができた。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
1 安心安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育(通学・スクールバス)等や生徒指導・生活指導の推進(生徒指導課) ・搜索訓練や不審者対応研修を実施し、児童生徒の安全管理に万全を期する。 	<p>①対象生徒に沿ったマニュアルを作成し、搜索訓練を実施する。</p> <p>②訓練実施後にアンケートを実施し、危機管理意識が高まったと回答する教職員が、8割を超えるようにする。</p> <p>③不審者対応研修を実施する。</p> <p>④自転車通学生や公共交通機関利用者を対象に、交通安全に対する意識が高まるような指導を実施する。</p> <p>⑤毎月、自転車通学生には自転車点検を行う。</p>	<p>・訓練実施後のアンケートでは危機管理意識がとでも高まった 61.1% 高まった 37.2% という結果で8割を超えた。</p>	<p>(評定)A (所見)</p> <p>・搜索訓練では、対象生徒に即した細かなマニュアルを作成し、具体的な訓練を行ったことが成果の大きさにつながったと感じる。</p> <p>・担任をはじめ、学年、学部、学校全体で共通理解のもと指導にあたり自転車通学生のヘルメット着用率100%を達成することができた。毎月の点検をはじめ折に触れ指導を行ったことで、児童生徒と教職員の安全に対する意識が高まり行動につながったと感じる。</p>	<p>評価指標の達成度による総合評価は適当である。学校の安全安心のために保護者や委員が具体的にどのように関わっていかねばよいのかを考えるきっかけになった。</p>	<p>・安心安全な学校づくりのためには、とりわけPDCAサイクルを捉えた訓練や研修が必要であり、そのときに即した訓練や研修を継続していくことが必要である。</p> <p>・引き続き、新規に自転車通学を希望する生徒にはヘルメットの着用を依頼することをはじめ、今後も学校全体で安全に関する指導を徹底していく必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 担任を中心として、対象生徒に特化したマニュアルを作成し学部内で検討する。</p> <p>①-2 全校で訓練を実施する。</p> <p>②-1 実施後にアンケートを実施し、良かった点や改善点をまとめたものを教職員で共有する。</p> <p>②-2 改善点を盛り込み、ブラッシュアップしたマニュアルを教職員で共有する。</p> <p>③-1 警察署員を講師に招聘し、不審者対応について学ぶ。</p> <p>④-1 毎月の学校安全の日に向けて、自転車通学生を中心として安全旗を設置する。</p> <p>④-2 交通安全教室や交通安全に関する集会を実施する。</p> <p>⑤-1 点検表を作成し、ヘルメット着用を含めて確認を行う。不備がある場合は早急に修理をするよう促し、修理後再度確認する。</p>	<p>ke</p> <p>①-1 担任を中心として、対象生徒に特化したマニュアルを作成し学部内で検討を行った。</p> <p>①-2 搜索訓練(5/10)を全校で実施した。</p> <p>②-1 実施後にアンケートを実施したところ、改善点をはじめとしたさまざまな意見を集約することができた。</p> <p>②-2 集約した意見と、改善点を盛り込み、ブラッシュアップしたマニュアルを教職員で共有することができた。</p> <p>③-1 不審者対応研修(5/24)では、警察署員の講話により、不審者侵入時の対応について学ぶことができた。</p> <p>④-1 毎月の学校安全の日を挟んで1週間程度、自転車通学の生徒が中心となり安全旗を設置することができた。</p> <p>④-2 交通安全に関する集会を4回実施することができた。交通安全教室は、警察署員を招き1月26日に実施した。</p> <p>⑤-1 毎月の学校安全の日に、ヘルメット着用を含めての自転車点検を職員朝会で呼びかけた。担任が点検を実施し、不備があった場合は早急に修理をするよう促したり、教員が修理を行ったりした。</p>			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
2 児童生徒に応じた教育活動の充実	・発達段階に応じた人権教育や図書教育の推進(人権教育課)	<p>①年間に2回以上、校内職員に研修機会を提供し、人権意識の向上や人権学習の充実に資する。(年度末の教員アンケートにおいて、8割以上の教員から「人権意識が高まった」「これからの人権学習に役立つ」との回答を得られるようにする。)</p> <p>②人権教育年間計画にもとづいた人権学習や「人権の日」の活動、公開授業等において、児童生徒が意欲的・主体的に取り組むことができる。(年度末の教員アンケートにおいて「人権学習や活動に児童生徒が意欲的に取り組めた」「主体的に取り組めた」とする回答を8割以上にする)</p>	<p><アンケートの結果></p> <p>①人権意識が「とても高まった」50.7%・「まあまあ高まった」49.3%、人権学習に役立つと「とても思う」50%・「まあまあ思う」50%と、回答いただいた方はプラス評価だった。</p> <p>②児童生徒が意欲的・主体的に活動に取り組めたかについては、「とても思う」26.2%・「まあまあ思う」66.2%・「あまり思わない」7.6%だった。</p>	<p>(評定) B (所見)</p> <p>・バリアフリー演劇は急な開催だったが、職員にとっては貴重な研修機会、児童生徒にとっては貴重な人権学習となった。思いのスタイルや感性で楽しんだり、鑑賞後自分から作文を書いたり、児童生徒の姿から得られるものも多かった。</p> <p>・町人研大会は4年ぶりの開催だったが、来校された方などの意見や感想を聞くことができ、本校の教育活動及び人権教育の取り組みを見直すいい機会となった。</p> <p>・校外研修や各種研究大会などコロナ前の状況に戻りつつあるが、全員参加のものは別として、出張可能で参加できる教員は限られており、研修機会が生かされているとは言い難い。</p> <p>・「人権の日」のあいさつ運動や人権放送に参加した生徒は意欲的に取り組んでいるが、他の生徒にもさらに啓発していけるような工夫が必要だと感じる。</p> <p>・各学級・ホームルーム毎の人権学習では、それぞれの児童生徒の特性や実態に応じた活動が、人権の視点を取り入れることにより工夫されている。ただし、一部で取り組みが難しい児童生徒もいるのが実情である。</p> <p>・年5回発行の「じんけん」は、配布するだけでなく、人権放送で内容を紹介することができた。外国人やLGBTなど、個人権課題について情報提供することができた。</p> <p>・町人研大会では、あらためて高等部生徒一人一人の課題や合理的配慮について考え、担当者間で共有することができた。</p>	<p>評価指標の達成度による総合評価は適当である。学校の安全安心のために保護者や委員が具体的にどのように関わっていかればいいのかを考えるきっかけになった。男女共同参画会議においても障がい者を含めた人権課題は大きく取り上げられている。令和5年度のパリアフリー演劇上演ができたことは成果であると思う。今後も自分自身を大切に思い自分らしく生きていくことが大切であると考えらる。</p>	<p>・職員研修については、アンケートで希望の多かった災害時における人権問題、インターネットによる人権侵害、障がい者などを中心に精選し、できるだけ多くの教員が参加できるよう実施時期や時間、研修方法等について検討・計画したい。</p> <p>・人権学習や活動については、児童生徒自身の自尊感情や他者との関わり、人権意識(被害者・加害者)をどう育てるかが大きな課題である。学習環境の設定、個々の児童生徒への対応など、教員に求められる知識や経験、スキルをバージョンアップできるよう取り組みたい。</p> <p>また、あいさつ運動やバリアフリー演劇のように児童生徒自身が活動できる機会を増やしたい。</p>
		活動計画	活動計画の実施状況			
		<p>①-1 教職員対象の校内研修(12月頃)の実施、校外研修の案内、各種研究大会の参加のよびかけを行う。</p> <p>①-2 研修後に、研修内容をふりかえり、今後に生かされるようアンケートを実施する。</p> <p>①-3町人研大会(高等部)に向けて、各担当で連携し、計画・運営をはかる。</p> <p>②-1 人権学習について、各学級・ホームルーム毎に、年度初めには年間計画、年度末には実践報告を作成し、共有できるようにする。</p> <p>②-2「人権の日」に、あいさつ運動・「じんけん」配布・人権放送を実施し、児童生徒や保護者への啓発活動を行う。</p> <p>②-3町人研大会(高等部)において、児童生徒の発達段階をふまえながら、指導案作成や公開授業を実施できるようにする。</p>	<p>①-1 今年度はバリアフリー演劇を兼校内研修として実施、校外研修は板野町で3回開催、各種研究大会は各学部で数名ずつ参加。</p> <p>①-2 アンケートをバリアフリー演劇の実施直後、今年度全体として1月に実施。</p> <p>①-3町人研大会(高等部)は10月に開催し町内の幼・小・中・高の先生方が来校した。作業学習を中心とする公開授業と合理的配慮をテーマとする交流会を高等部職員と人権教育課員を中心に計画・運営した。</p> <p>②-1 人権学習について、各学級・ホームルーム毎に、年間計画にもとづいて実践した。</p> <p>②-2「人権の日」のあいさつ運動は高等部の人権委員と生徒会役員により毎月、「じんけん」と人権放送については年5回、実施した。また、文化週間では児童生徒の人権ポスターを、校内人権週間では「やさしさつながるほっとHOTメッセージ」のパネル展示を通して、啓発活動を行った。</p> <p>②-3町人研大会においては、高等部の生徒の発達段階をふまえ、個々の生徒の合理的配慮と進路を意識するなど、教員間で協力・工夫しながら指導案作成や公開授業を行った。</p>			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
2 児童生徒に応じた教育活動の充実	・発達段階に応じた人権教育や図書教育の推進(図書課)	①図書室の児童生徒の図書資料の貸し出し数が、月に50冊以上になることが、年6か月を超える。	①8か月中、全ての月において貸出数が月に50冊以上(57～102冊)になった。	(評定)B (所見) ・移動図書室、図書室壁面クイズ、図書放送等の実施を行い、読書活動や図書室利用への啓発に努めた。 ・コロナ禍中はリモートで行っていたお話を、各学部毎に対面にて実施した。参加者のアンケート(自由記述)で、対面での実施は良い評価が得られた。	評価指標の達成度による総合評価は適当である。学校の安全安心のために保護者や委員が具体的にどのような関わっていかばよいかを考えるきっかけになった。	・次年度も引き続き、お話し会、移動図書室、図書室壁面クイズ、図書放送などを実施し、読書活動の推進を図る。 ・お話し会は対面で、各学部の実情に合わせて実施したい。読み手については、児童生徒、教員その他に、これまでずっと協力していただいているお話ボランティア「いずみ」の方に読み聞かせを依頼したいと考えている。
		活動計画 ①-1新着図書を広報する等して、図書への興味・関心、読書への意欲を高めるとともに、図書資料等を整備し、図書室を利用しやすい環境作りを行う。 ①-2図書室前掲示板において、季節の壁面飾りや様々な展示をしたり壁面クイズを実施したりして、図書室の利用を促す。	活動計画の実施状況 ①-1新着図書を広報後に、新着図書用の棚を設定して配架し、利用を促した。 ①-2児童生徒の愛読書の紹介他、様々な展示等を通して図書室の利用を促した。壁面クイズでは80名近い応募があった。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
3 保護者や関係機関等と連携した教育の推進	・保護者と連携したPTA活動や学校行事(体育祭・文化祭)の推進(涉外課)	①PTA総会(定期総会)を年1回実施する。 ②PTA役員会を年4回実施する。 ③施設見学を年1回実施する。	①PTA総会(定期総会)を年1回実施することができた。 ②PTA役員会を年4回実施することができた。 ③施設見学については未実施であった。	(評定)B (所見) ・PTA総会、PTA役員会について、予定通り実施することができた。 ・施設見学については、未実施であった。 ・PTA総会では、小学部17名、中学部21名、高等部17名、計55名の保護者の方に参加していただくことができた。学校運営等についてのご意見はなかったが、新年度の事業計画等について温かい拍手による承認をしていただくことができた。 ・PTA役員会で検討された11月13日の美化作業については、雨天のため中止となった。美化作業と同日に実施予定であったベルマーク回収作業については、急遽日程調整をしていただき、12月13日に実施していただいた。ポータブルソーラーパネルとソーラーパネル延長ケーブルを購入することができた。臨機応変に対応していただき、ありがたかった。	評価指標の達成度による総合評価は適当である。学校の安全安心のために保護者や委員が具体的にどのように関わっていかばよいのかを考えるきっかけになった。今後はPTA意見箱の活用や施設見学をどのように計画していくのか等活動に課題があると感じている。	・PTA総会資料作成に当たり、配布直前に資料の訂正を行うことがあった。行事の日程についての訂正であったので、担当教員の方にも確認していただくことが必要であると感じた。 ・施設見学については、どの児童生徒を対象として見学を行うかを定めることが難航したため、今後の実施計画案を立案することが必要であると思う。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 4月にPTA総会を実施し、昨年度の事業報告や会計報告、新年度の事業計画や予算案等を確認し、承認を得る。 ①-2 保護者と学校間で意見交換を行い、議題となる事柄について意見をまとめ、問題解決に向けて話し合う。 ②-1 4月、5月、10月、2月の年4回PTA役員会を実施し、研修会や会計、次年度の行事について等の確認を行う。 ②-2 保護者を代表する本部役員からの意見を集約し、問題解決に向けて話し合う。 ③-1 9月以降に実施する施設見学に向けて、保護者と連携し調整を行う。 ③-2 施設見学後、保護者の意見を集約し、次年度の取り組みに繋げる。	①-1 PTA総会を4月30日に実施することができた。昨年度の事業報告や会計報告、新年度の事業計画や予算案等を確認し、承認を得ることができた。 ①-2 創立60周年記念式典実施に向けて、クリアファイルや巨人作成等の材料費をPTA会費から支出することを協議し、拍手による承認を得ることができた。本部役員からPTA意見箱を活用してほしいとの依頼があり、保護者に周知することができた。 ②-1 PTA役員会を5月22日、10月16日、2月19日、4月17日の年4回実施することができた。研修会や会計、次年度の行事について等の確認を行うことができた。 ②-2 PTA役員会では、本部役員から水泳実習、駐車場、スクールバス発車時刻、制服や体操服のリサイクル等についてご意見をいただくことができた。問題解決に向けて有意義な話し合いをすることができた。 ③-1 PTA役員会では、12月に実施の方向で調整が進んでいたが、調整が難航したため、未実施となった。 ③-2 未実施であったため、保護者の方から意見を集約することはできなかった。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
3 保護者や関係機関等と連携した教育の推進	・保護者と連携したPTA活動や学校行事(体育祭・文化祭)の推進(特別活動課)	<p>コロナウイルス感染症が5類に変更したことを受け、保護者と連携した開かれた学校作りを目指す。</p> <p>①体育祭・文化祭において実施内容が児童生徒の実態に即しているか、5回以上検討を重ねる。</p> <p>②学校行事後のアンケートにおいて、児童生徒がそれぞれの持つ力を活かして主体的に活動できたかについて肯定的な評価を80%以上得る。</p>	<p><アンケートの結果></p> <p>①体育祭・文化祭とも課会及び担当委員会において、ケース会も含めると10回以上検討できた。</p> <p>②体育祭・文化祭で保護者及び職員アンケートを実施し、すべてのアンケートにおいて80%以上の肯定的な評価を得ることができた。</p>	<p>(評定)A (所見)</p> <p>・校内での行事に関しては、活動計画の通り実施することができた。行事ごとに検討を行い、内容を精選し、実態に即したものであるように計画実施できた。</p> <p>・体育祭、文化祭ともに行事終了後のアンケートでは評価指標を達成することができた。今後、アンケートの結果を踏まえて以前に戻すだけではなく、この3年間で学んだことを生かしながら、より本校の児童生徒の実態に即した学校行事を計画、実施できればと考える。</p>	<p>評価指標の達成度による総合評価は適当である。体育祭や文化祭等報告のあった行事は学部開催になるなど随所に工夫がみられる。今後はPTAがこの行事にどのように協力していくかを学校と相談して具体的にしていければと思う。行事の精選は大きな課題であるが2つの行事を組み合わせるなど新しい行事を生み出していくような考えが必要になってくると思われる。</p>	<p>・変化する社会情勢を見据え、児童生徒の実態に即した内容での学校行事を実施しなければならない。そのためにも今までの以上に保護者や関係機関と連携した教育活動を推進していく。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①各学部、学習グループで児童生徒の実態に沿って実施内容を検討する。課内の検討会において意見を集約し、学校全体での共通理解を図る。特に、この3年間の経験を生かし、すべてを元に戻すのではなく、良かった点をしっかり検討した上での新しい形の学校祭を目指す。</p> <p>②行事後にアンケートを実施し、保護者や教職員の意見を集約する。児童生徒がそれぞれの持つ力を活かして主体的に活動できていたか評価する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①各学部では月1回の学部会、各グループでは5回以上検討会を実施し、より実態に即した内容を考えることができた。課の担当委員会で各学部やグループでの意見を集約し、日程や内容、活動場所等を決定した。</p> <p>②行事実施後すぐにアンケートを実施し、保護者や教職員の意見を集約し、評価を出すことができた。アンケート結果を教職員全員に回覧した。</p>			